



南幌町議会議長
側瀬 敏彦

新年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。

平成28年の年頭に当たり町議会を代表して、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

町民の皆様には希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。

日頃より町政と議会に深いご理解とご協力を賜り、心から厚く感謝とお礼を申し上げます。

昨年我が町は災害もなく農作物は順調な生育を保ち、特に野菜は高値安定で推移したことは、町の基幹産業農業にとっては喜びに堪えないところです。町として生涯学習センターのオープン・夕張太小学校の民間企業譲渡・今春オープンの町民プール着工とインフラ整備を進めた年でありました。

昨年11月21日に姉妹町である熊本県多良木町の合併60周年記念式典に三好町長と出席して、改めて長い歴史と「人吉球磨のストーリー」が初の日本遺産に認定された町の流れに感銘し、今後とも子ども達はもとより民間レベルの交流を深めていく必要があると感じました。

国の動向を見て地方創生法が一年経過した中、地方版総合戦略が各自治体で検討し事業展開が図られています。このことは将来の各自治体格差を生じることであり、町の将来を見出した施策を盛り込むことが必要不可欠であると思うところです。

また、「政治は未来を創る」という言葉がありますが、今年から選挙権が18歳となり将来を担う人が自分の一票を身近に感じ、大切に行使してくれることを望むところです。

気がかりなのは南幌町の人口が8千人を下回り、将来の推計ビジョン等を懸念しているところであります。

私は雇用が最大の福祉と考え、町として人口増・工業団地進出企業・新規就農者・新たな企業立地などを積極的に取り組まなければならないと考えています。

今後、第6期総合計画を策定するうえで、大きな問題を含めた町立病院など改革意識を持ち、諸処の課題を正しく審議する、開かれた議会を目指し議員一同、町民福祉向上のために南幌町の地域力強化に努めていきたいと考えています。今後とも町民皆様のご協力とご鞭撻を賜り、重責を全うしたいと念願をしております。

結びになりますが「安心・安全」な町づくりを基軸とした更なる南幌町の発展と町民皆様にとって一年を通してご健勝でご多幸であることをご祈念申し上げ年頭のご挨拶といたします。

年頭のあいさつ



南幌町長
三好 富士夫

新しい年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、町政各般にわたり町民の皆様のご格別のご支援ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年は、全国的に台風や大雨による被害が発生し、茨城県常総市では、鬼怒川の決壊などにより甚大な被害が発生いたしました。被災されました皆様に対し、改めて衷心より哀悼の意を表するとともにお見舞い申し上げます。

本町も、全国様々な地域で発生している急激な天候の変化による災害、地震などに対応するため、治水対策はもとより、災害時に早急な対応ができるよう防災対策をさらに強化するよう進めてまいります。

幸いにして、本町は大雨警報等が数回発令されましたが、大きな被害もなく農作物も順調な作柄となったところです。ぜひ町民の皆様へ安全・安心な南幌で収穫した農産物を食べて頂きたいと考えております。

また、子どもたちが各種スポーツにおいて全国、全道の大会で活躍したことも大変嬉しく思っております。本町の子どもたちが、今後も活躍できるような環境づくりをしていかなければと強く感じております。

今年新しく「町民プール」がスポーツセンターと併設となり、現在完成に向け準備を進めており、施設の相乗効果と利便性を高め、利用期間の拡大や水中歩行専用のコースを設置して、子どもから大人まで利用していただける施設として5月にオープンしますので、多くの町民の皆様へ利用していただきたいと考えております。

町の財政は、今後も経済状況や人口減少、少子高齢化の社会環境などの変化に対応していけるよう、引続き行財政改革をしながら、効率的かつ計画的な財政運営に努め、私が目指す「元気づくり」、「安心づくり」、「人づくり」、「信頼づくり」の4つの柱に沿って、最終年となる第5期総合計画・後期基本計画に掲げた施策を中心に町政を推進するとともに、平成29年度を初年度とし10年間を計画期間とする第6期総合計画の策定に取り組んでまいりたいと決意を新たにしております。どうか、町民の皆様におかれましては、より一層のご支援、ご協力を町政発展のためにお寄せいただきたいと存じます。

最後になりましたが、ご家族ともども、ご健康で幸多い年であることを心よりお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。